



特集 富士山世界文化遺産

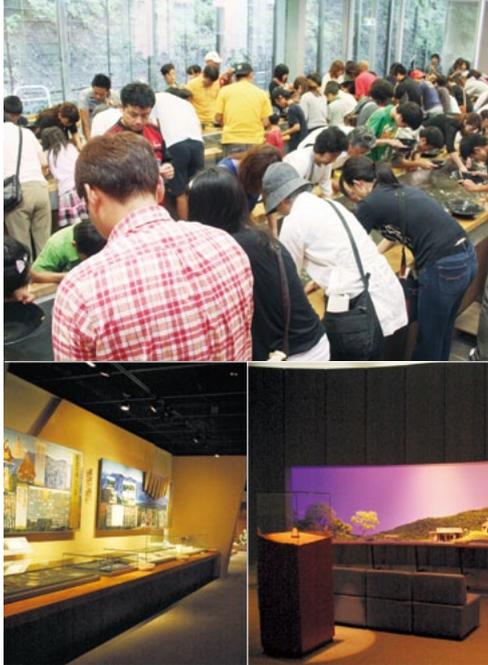
やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.34 September.2013

contents

.....
巻頭随想
市町村リレー まちづくり夢づくり
苦言提言
講演録
市町村の災害対応力の強化支援
防災新館整備等事業
市町村調査研究事業
がんばっていま～す。
電子自治体コーナー



machijim an

お問い合わせ先

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

TEL:0556-36-0015 FAX:0556-36-0003



シリーズ
ま・ち・自・慢

Minobu-Town

身延町

湯之奥金山博物館と湯之奥金山遺跡について

VOL.34 SEPTEMBER. 2013 machijim an

「湯之奥金山」は、中山・内山・茅小屋の3つの金山の総称で、下部温泉郷奥の「湯之奥」集落を更に奥へ入った、山梨と静岡の県境に位置する毛無山山中に存在し、平成9年9月に甲州市の黒川金山遺跡とともに、「甲斐金山遺跡 黒川金山・中山金山」として国史跡に指定されています。

毛無山は山梨百名山の一つでもあり、年間多くの登山愛好者が訪れます。今年7月には遺跡範囲内の全7か所に金山遺跡解説看板を設置し、さらに現地もわかりやすくなりました。

湯之奥金山遺跡を中心に、戦国時代の鉱山作業と、そこに暮らした人々の生活の様子を紹介している専門博物館が、「甲斐黄金村・湯之奥金山博物館」です。シアター、ジオラマ展示室、資料展示室、また、鉱山作業のひとつ「汰りわけ」を体験できる砂金採り体験室も併設されています。開館以来、全国から年間約2万人のお客様をお迎えし、また、子ども金山探検隊や砂金掘り大会、東西高砂金掘り大会、化学実験教室、親子映画観賞会、見学バスツアー、「金山史研究」の発刊など、年間を通じて大人から子供まで、幅広い年代層で楽しめるイベントも展開していますので、博物館にも遺跡の現場にも足を運んでください。

(※保存管理計画については、湯之奥金山博物館HP「中山金山保存管理計画」に掲載されています。)

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.34 September.2013

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.34 September.2013

- まち自慢 身延町
- 02 巻頭随想 おもてなしの心
大月市長 石井由己雄
- 04 市町村リレー 韮崎市
- 08 苦言提言 山梨らしさを求めて
内閣官房地域活性化統合事務局参事官 宇野 善昌
- 09 特集「富士山世界文化遺産」
- 10 特集1 世界遺産「富士山」の保存整備について
- 12 特集2 世界遺産登録と地域活性化について
- 14 特集3 千円札の本栖湖から世界文化遺産の本栖湖へ
- 16 特集4 富士山世界遺産天然記念物日本名水百選【忍野八海】
- 18 特集5 世界遺産を活かしたまちづくりを目指して
- 20 特集6 世界遺産「富士山」と共に歩む鳴沢村
- 22 特集7 富士山世界文化遺産登録までの道のりと今後の展望
- 24 講演録
- 28 市町村の災害対応力の強化支援
- 30 防災新館整備等事業
- 32 自治 Q & A
- 35 市町村調査研究事業
- 38 がんばっていま~す。
- 40 電子自治体コーナー
- 42 はつらつ!!市町村職員
- 44 市町村振興協会たより
時の人
編集後記

■表紙写真 富士河口湖町の富士山と月見草



「富士には月見草がよく似合ふ」文豪太宰治が昭和13年頃、富士河口湖町の天下茶屋に滞在中の創作活動を通じてうまれた一言です。

雄大な富士山と湖畔沿いに咲く月見草は時代が流れてもその調和を保ち続け、多くの人を魅了しています。 [富士河口湖町提供]

「おもてなしの心」

石井 由己雄 大月市長



石井由己雄 (大月市長)

PROFILE

昭和22年1月9日 大月市笹子町生まれ。
昭和44年4月 石井工業株式会社入社
昭和63年9月 同社代表取締役社長就任、
平成19年6月 退社
その間、平成15年5月から平成19年5月
社団法人山梨県建設業協会会長を務めた。
平成19年8月 大月市長就任
現在2期目 66歳

大月市は山梨県の東部に位置し、首都東京へは東に80km、県都甲府市へは北西に40kmに位置しています。

中央本線や中央自動車道、国道20号により東京方面へとつながっており、富士急行線や中央自動車道富士吉田線、国道139号によって、富士北麓方面、甲府盆地方面への分岐点として、古くから交通の要衝となっています。

地域の9割近くを山林が占め、豊かな緑や清流など美しい自然環境に恵まれ、「旧500円札の富士山」としても有名な「雁ヶ腹摺山」など、市内の山々からの富士山の眺望が素晴らしいことから、平成4年には富士山の眺望が特に美しい市内12の山頂を「秀麗富嶽十二景」に選定し、大月市出身の世界的に有名な山岳写真家「白簾史朗」氏を審査員長とした写真コンテストを毎年開催し、大月市の山々から見える素晴らしい富士山を市内外にアピールしてきました。

近年は、本格的な登山ではなく、身近にある山

を気軽に楽しんだり、森林浴を目的としたいわゆるトレッキングをされる方が増えています。

本市では、東京都心から中央本線でわずか1時間というアクセスの良さを生かした企画を「JR東日本・山梨県との協賛により、市内6駅（梁川・鳥沢・猿橋・大月・初狩・笹子）を拠点とした魅力あるトレッキングコースを設定し、多くの皆さま方に訪れていただいています。

このような中、多くの国民が長年待ち望んでおりました富士山の世界文化遺産登録が去る6月22日ユネスコの世界遺産委員会において決定されました。

日本の宝である富士山が選ばれたことは、誠に喜ばしく、本市としても富士山の世界文化遺産登録を多くに歓迎すると共に支援するため、美しい富士山が望める秀麗富嶽十二景の一つであり、市民にもっとも親しまれ身近な存在となっている「岩殿山」の中腹にある「岩殿山ふれあいの館」1階の白簾史朗写真館を3ヶ月間無料開放し、白簾



秀麗富嶽12景写真コンテスト第20回最優秀賞(雁ヶ腹摺山) 躍動

先生の撮影した迫力ある十二単衣をまとった富士山の写真を多くの方々に見ていただきました。

4月30日の国際記念物遺跡会議（イコモス）の勧告以来、富士山五合目や周辺観光地が賑わい、中央本線や富士急行線の乗降客増加に伴い、大月駅前にある観光案内所での対応が通常よりも増えた状況となっています。

特に富士山の山開きを向かえた7月の大月駅前には、週末はもちろん、平日でもリュックサックを背負った登山者が増え、その中には外国人の方々が増えていることから、観光案内所に外国語の堪能な観光ボランティアを配置し、市内や富士山、山梨県の観光情報を、丁寧にご案内させていただきます。

このように、大月駅を富士山方面への乗り継ぎ駅として利用される多くの方々へ「おもてなしの心」を持った温かい対応や、賑わいのある街づくりに繋げる取り組みとして、大月市観光協会や大月市商工会など市内26団体の関係者と協議し、世界遺産が登録された日には、大月駅前や大月インターチェンジ付近に富士山世界文化遺産登録のお祝いと本市をアピールする懸垂幕や幟旗の設置を行い、大月駅前においては市民と共に「登山の無事」と「大きなツキがあるように」と願いを込め、餅つきを行い、市内外から訪れた方々や外国人の方々と一緒にお祝いいたしました。

また、富士急行線大月駅のホームでは、地産地消や観光をPRした市内業者による駅弁の販売を始めるなど、今後、多くの経済効果が見込まれるものと期待しています。

さらに今年、山梨県内において国民文化祭が初の通年開催として盛大に開催されており、本市においても2月の「大月市オープンングセレモニー」を皮切りに、「秀麗富嶽十二景写真フェ

スティバル」、6月の「阿波踊りフェスティバル・ステージバージョン」や、大月市の夏の風物詩となっており「かがり火市民祭り」では、「阿波踊りフェスティバル・ストリートバージョン」と題し、多くの観光客に訪れていただくことが出来ました。

今後10月には、伝統を引継ぐ人形芝居の祭典「人形芝居フェスティバル」を開催する予定となっております。

近年の観光客が求めている「ふれあいを求める観光」に対して、「おもてなし」の提供をするため、大月市をはじめ観光関連団体、交通事業者、各種団体及び市民が参加し「おもてなしの心あふれる魅力ある大月市」の実現をめざして、「おおつきし・心あつたまるおもてなしの心推進協議会（通称・大月市おもてなし推進協議会）」を設立し、定期的に意見交換を行い、情報の共有化を図る活動



阿波踊りフェスティバル

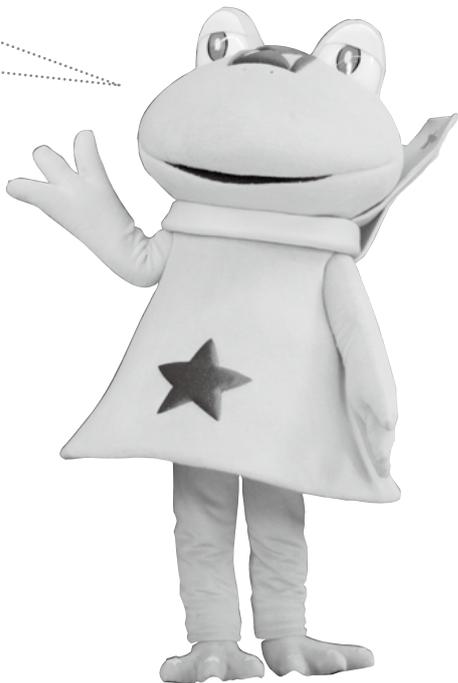


追分の人形芝居

や街なかクリーン作戦など美化活動も実施しております。

今後、行楽シーズンの春と秋に「おもてなし推進月間」などの各種活動を通じ、大月市を訪れる方々や世界文化遺産となった富士山へ向かう方々に「富士の眺めが日本一美しい街」として市民の皆さまと共に「おもてなしの心」を持って迎えたいと思いますので、緑豊かな大月市にお越し下さい。





市町村リレー

まちづくり 夢づくり

韮崎市 34

MACHIZUKURI
YUMEZUKURI

夢と感動のテーマシティにららさぎ



かつての甲州街道38番宿場町・韮崎宿（現在の本町通り）

韮崎市では、甲州街道の宿場町としての歴史を背景に、まちなか活性化策の一環として、平成23年度より『のれんのあるまちづくり』事業に取り組んでいます。

連綿と受け継がれてきた自然と
歴史に抱かれた

『武田の里・つらやま』

八ヶ岳からの風、鳳凰三山の懷に包
まれ、富士山を仰ぐ甲府盆地の西端に

位置する韮崎市。時の流れが創りあげ
た七里岩の先端に広がる地形には、縄
文・弥生時代の文化や戦国武将の歴史
が息づいてきました。

韮崎市は、古くから人と文化が行き
交う交通の要衝、甲州街道の宿場町と



夢と感動のテーマシティにらさきのイメージキャラクター“ニーラ”

2009年、葦崎市制施行55周年を記念して、葦崎市を舞台にした1冊の絵本が誕生しました。そこに登場する主人公のニーラは、神さまのお使いで、夢をかなえる不思議なカエルです。

以来、各種イベントやキャンペーン、ユーチューブ動画で葦崎市をPRするなど、葦崎市のゆるキャラとして地域活性化に一役買っています。

して栄えてきました。周囲には雄大な南アルプス、八ヶ岳、「日本百名山」の著者、深田久弥氏終焉の地・茅ヶ岳、そして世界文化遺産にも登録された霊峰富士山といった日本の名峰が聳え立ち、葦崎市が他に誇る大自然のパノラマが360度に展開します。

また、武田家が氏神として崇拝した武田八幡宮や信義公の菩提寺である願成寺、勝頼公が自ら火を放った悲運の城・新府城など、武田家ゆかりの史跡が市内のいたるところに点在する『武田家発祥の地』でもあります。

『サッカーのまち・にらさき』の歴史と風土を活かしたまちづくり

大正12年、葦崎中（現葦崎高校）の初代校長であった堀内文吉氏が「八ヶ岳おろしの吹きすさぶ当地では、テニスや水泳は無理だ。蹴球が一番適している。」と蹴球を校技にし、昭和2年に赴任した岩崎鋭市郎氏に監督就任を命じたのが、サッカーの名門・葦崎高校の始まりといわれています。その後、指導者や選手の不断の努力により、出場した各種大会で数々の優勝を果たし、全国に「山梨に葦高あり」と名を轟かせるようになりました。

昭和50年8月、全国高校総合体育大会が東京・埼玉・茨城・山梨の全都三

県で開催されるにあたり、「とにかくサッカーは葦崎、こういう『サッカーのまち』で大会を開催すれば、必ず成功するだろう。」という、全国の関係者の強い要望があつて、葦崎市開催が決定されました。こうした経過を踏まえて、以来、『サッカーのまち・にらさき』が誕生しました。大正・昭和初期から続く葦崎市のサッカーの伝統は、八ヶ岳から吹きつける強風「八ヶ岳おろし」という風土と葦崎市に生きる人々の努力と精神が結びつき、今日まで育まれています。

スポーツは個人の心身の健全育成や豊かな人生に必要な不可欠なものであると同時に、元気なまちを創造するための大きなエネルギーと可能性を秘めています。

葦崎市においては、歴史に培われたサッカー文化を、かけがえのない特色ある財産として捉え、世代や性別を超えてサッカーを楽しみ、競技を通じた交流機



武田の里にらさきサッカーフェスティバル

競技力の向上とスポーツを通じた健康・教育の推進及び交流を深めることを目的に開催する、毎年恒例のサッカーフェスティバル。

今回で33回目を迎えた伝統ある大会として、全国各地から各カテゴリーの選手が葦崎市に集う。

会の拡大を図るなど、あらゆる分野や産業など、多種多様な面から構成される「サッカーのまちプロジェクトプラン」を策定し、サッカーを核とした魅力あるまちづくりを推進しています。

また、ヴァンフォーレ甲府のホームタウンの一員として、優先的に使用可能な主たる練習会場を提供し、県内外から多くのサッカーファンを誘客することによる地域活性化にも取り組んでいます。

阪急、東宝、宝塚歌劇団などの 創始者・小林三三翁生誕のまち ふるさとの偉人に学ぶ―

阪急、東宝、宝塚歌劇団などの創始者として知られる小林三三は、明治6年1月3日、現在の葦崎市本町の商家、布屋に生まれました。慶應義塾を卒業後、三井銀行を経て関西で鉄道事業に関わり、鉄道沿線の住宅地開発やターミナルデパート、動物園、遊園地等の創設など、現代にも通用するビジネスモデルを次々と展開された偉大な実業家です。

一三翁の生誕135周年に当たる平成20年、『夢と感動のテーマシティにらさき』の実現を目指し、「市民協働による新しい創造力を備えた人が集まる賑わいのあるまちづくり」を進めるため、一三翁の生涯に学ぶ官民協働の研究会『逸翁すみれ会』が立ち上がりました。以来、一三翁のゆかりの地を巡る「ふるさと学習散歩」や講座、学習会の開催など、様々な事業に取り組んできました。

折しも、本年が一三翁生誕140周年の記念すべき年にあたることから、山梨県を舞台に繰り広げられる第28回国民文化祭『富士の国やまなし国文祭』において、小林三三・保阪嘉内の世界展を開催（9月1日～11月10日）葦崎市民交流センター（し）し、一三翁生誕の地・にらさきとしての情報を全国に発信するほか、将来を担う子どもたちにも、一三翁が成

し遂げた偉大な功績を伝え続けていくための「親子で学ぶフォーラム」を開催し、生涯を通じて、生まれ育ったふるさとに誇りと愛着を持ち続けられるような施策の推進にも取り組んでいます。

人が集う、交流のあるまちづくり

市民文化の創造、 交流・コミュニティ活動の 拠点づくり

市街地の拡大に伴い、大規模商業施設の郊外進出が進行するなか、平成21年3月には、昭和59年10月の開業以来、JR葦崎駅前でもちなかの賑わいの創出の中心的役割を果たしてきたショッピングセンターが、営業を終了しました。一方で、同年4月には、葦崎駅東側に



葦崎市民交流センター「ニコリ」

愛称「ニコリ」は公募により決定し、葦崎市の「二」を前面に持つべくるとともに、葦崎市民交流センターの文字の各部分からとっています。市民や来訪者、子育て中の親子など、大勢の人が「ニコリ」として集い、学び、活動し、さらに賑わいを創り出しながら交流していくようにという願いが込められています。

流し、コミュニティ活動を楽しむ場として、地域情報発信センターや図書館、子育て支援センターなど、様々な機能を集約した、市民参加型の新たな拠点としてオープンしたのが、葦崎市民交流センター「ニコリ」です。

ニコリは、平成23年9月のオープン以来、多くの皆さんに支えられ、今日まで約65万人の方が来館するなど、葦崎市の新しい交流スポットとして、連日賑わいを見せています。

「ライフガーデンにらさき」がオープンし、新たな集客力による人の流れが、周囲に波及していくことが期待されるようになりました。こうしたなか、『葦崎市第6次長期総合計画』において、JR葦崎駅周辺地区については、生涯学習・文化・産業・アミューズメント機能と公共施設が集積した、賑わいのある「まちなかコンパクトシティ」として、葦崎市の玄関口にふさわしい土地利用の転換を促進し、新たな活動拠点の創出による都市機能の充実とともに、旧宿場町としての歴史的空間や文化施設等の融合による、中心市街地への賑わいの再生を目指すことを施策の一つに掲げました。



ニコリ内に整備した子育て支援センター

市内はもとより、近隣市からも連日、多くの親子連れが訪れている。

将来を担う子どもを のびのび育むまちづくり

子どもが健やかに生まれ、安心して育児ができる環境づくりは、現代社会において最も重要な施策の一つです。

そこで、韮崎市においては、中学3年生までの子ども医療費無料化や親子が気軽に安心して過ごせる場、子育て中の皆さんがお互いの悩みを相談しながら、交流を深める場としての時間と空間を提供することを目的とした、屋内施設としては県内でも最大級の子育て支援センターの整備など、子育て環境の充実に努めてきました。

引き続き、韮崎市保育園再編整備計画に基づき、まずは平成26年度中の完成を目的に、木のぬくもりが漂う木造建築の新保育園建設に着手するなど、子育て・教育環境の整備・充実を積極的に推進し、子どもをのびのび育む社会の実現を目指します。

地域資源を活かした 協働のまちづくり

『まちづくり』は、地域文化や風習、生活環境、その時々々の社会・経済情勢など、暮らしを取り巻くあらゆる要素を総合的に検討しながら進めていくものだと考えます。

魅力あるまちづくりを推進するためには、そこに住む住民が、自らのまちが保有する様々な魅力に気づき、まちの将来を真剣に考え、自ら行動することが重要です。

これまでも、韮崎市では地域資源や人材を活かした、官民協働による「一町一ブランド」事業に取り組んできました。一例として穂坂町ふるさと協議会による、地元特産品のぶどうを活用した



ビジュ・ド・穂坂



ヴァン・穂坂

『ヴァン・穂坂』（マスカットベリーAを使用した赤のスパークリングワイン）や『ビジュ・ド・穂坂』（宝石のように美しい手作りのジャ

ム）、『ソレイユ・ド・穂坂』（コンポートタイプのジャム）の開発や穴山町ふれあいホール運営協議会による、同町出身の童謡詩人・権藤はなよ（童謡たなばたさまの作詞者）の「たなばたさまの詩碑」建立による、地域のPR活動などが挙げられます。

7月7日の七夕の日に行われた詩碑の除幕式で配られた小冊子のあとがきには、『権藤はなよの功績を郷土の誇りとし、末永く顕彰し、地域活性化に役立てることが、我々に課せられた使命である』と書かれていました。

このように、住民のなかにまちづくりの当事者としての自覚と責任が芽生え、自らが積極的に係わっていくことが、魅力あふれるまちづくりには必要不可欠な要素だと思えます。

おわりに…

韮崎市では、市民と行政がともに手を携え、韮崎市が目指す将来都市像を持続的に成長する『夢と感動のテーマシティにらさき』と定め、すべての市民が夢を持ち続け、感動することができるまちの創造を目指して、家族の絆・地域の絆・韮崎市を訪れる人々との絆を大切にしながら、引き続き、それぞれが喜びを共有していただける、美しく、人・地域が輝く、魅力あるまちづくりを進めていきます。

山梨らしさを求めて

平成20年7月からまる4年間、私は、甲府市副市長として甲府市に赴任していました。その間、宮島市長を始め市役所職員の方々には大変お世話になり、また、多くの素晴らしい方々と出会うことができ、本当に充実した日々を送ることができました。この紙面をお借りして、あらためて深く感謝申し上げます。

赴任中や退任の際には、ソト者からみた甲府ということで、しばしば「甲府の印象は？」という質問を受けました。これに私はいつも「とても贅沢なまち」と答えていました。これは偽らざる私の印象です。甲府では、毎日、南に霊峰富士、西には南アルプス連峰を拝むことができ、素晴らしい景観を楽しむことができます。まちなかでは、普通の銭湯でかけ流しの温泉が楽しめます。日照時間は日本一だし、普通の水道水でさえとても美味しい。食べ物も、桃、葡萄、すもも、サクランボと、高級の果物があり、私の大好きな甲州ワインがあります。武田信虎公以来500年の重厚な歴史を有し、ミレー館を始めとする素晴らしい文化資産もあります。それから、サッカーのJ1

苦言 提言

Kugen Teigen

宇野 善昌

yoshimasa uno

内閣官房地域活性化統合事務局参事官
(前甲府市副市長)



に所属するヴァンフォーレ甲府は、県下全ての市町村がホームタウンとして支える県民のチームです。

こんなに誇るべきことの多い贅沢なまちであるにもかかわらず、市民に「甲府ってどんなまちですか？」などと聞くと、「甲府なんか何にもないよ」という答えが普通に返ってきます。これはとても残念なことです。もともと我がまちに自信と誇りを持つてほしいといつも感じていました。

既に日本は人口減少・超高齢化の道を歩み始めています。すなわち、日本全体として経済が縮小していく時代に突っ入り、減少していくパイを奪い合う都市間競争は厳しさを増していきます。そうした中、14年後にはリニア中央新幹線が開通する見込みです。品川や長野、岐阜、名古屋と30分以内で結ばれることになれば、山梨にとつてこれらの都市との競争は、非常に厳しいものになるでしょう。東京や名古屋と同じことをしていて勝てるわけがありません。これからは、東京や名古屋にはない魅力づくりを目指し、如何に山梨らしいまち・地域づくりをしていくかが重要です。

ただ、現状は、必ずしもそうはなっていません。これまで東京と同じような華やかさを享受しようと、ミニ東京を

目指してきた結果、山梨らしさの感じられない、言い方を変えれば、わくわくしないまちになってしまった面があると思います。

では、どうするか。「甲府なんか何もないよ」なんてことはありません。まず、山梨の魅力をもう一度見つめなおし、掘り起こすことです。その上で、それを一生懸命磨くこと。更には、そうして見つけて磨いた地域資源や人材をつなぎ、外に向けて発信していくこと。これを、県下の全市町村挙げて行うことが必要だと思えます。実は、こうした、自らの魅力を見つめること、お互いが連携すること、外に向けて発信することは、いずれも、私が見るところ、山梨県民がとてても不得意であった分野です。

しかしながら、最近、甲府市役所職員による「みなさまの縁をとりもつ隊」や「こうふ食倶楽部」を挙げるまでもなく、そういう活動は、市町村職員の方々やまちなかの問題意識をもった若者を中心に広がっています。

私は、こうした活動がもっと裾野を広く展開されていけば、素晴らしい地域資源(宝)をたくさん有する山梨県が発展しないわけがないと確信しています。皆様には、山梨への誇りと自信を持って、山梨らしさを追求していただきたいと思います。